

■大航海時代1(教科書p. 130~133)

メインエッセション

MQ: 大航海時代はどのようにはじまったのだろうか

I 大航海時代の背景

◇海外進出の背景…停滞した経済状況を打開する手段

- ・14世紀後半のヨーロッパ…(1)による農業人口減少、農民一揆 → 領主層の収入減、商業の不活発
- ・ポルトガル…国家収入減
→ 領主層の子弟や商人に新しい活動の場を与え、商人たちに新市場を提供 ⇒ 海外進出へ

◇ポルトガルの海外進出…いち早く大西洋、インド洋に進出

- ・理由:ムスリムの(2)支配(5世紀以上にわたる) → 北アフリカとの交流から海外の情報を得る
- ・ムスリムから地理学や(3)、造船技術や(4)を移植

II ポルトガルの動向

◇アフリカからインドへ

- ・[5]航海王子…東廻り航路開拓、技術の発展、資金援助
北アフリカ先端のセウタを占拠し、西側に沿ってアフリカ大陸を南下
- ・バルトロメウ・ディアス…アフリカ南端の(6)に到達(1488)
- ・[7]…インド洋からインドのカリカットに到達(1498)
- ・アジアでの通商路確保…インド(ゴア)(1510)、モルッカ諸島((8))(1512)、
ペルシア湾(ホルムズ島)(1514)、日本((9))(1543)、中国(マカオ)(1557)
⇒ 古来からの(10)の重要拠点を奪う
- ・カブラルが南アメリカ中部に着く(1500) → (11)と名付けられ、ポルトガル最大の植民地に

III スペインの動向

◇コロンブスの航海…コロンブスは地球がまるいと信じる

- ・[12](伊)…スペイン女王イザベルの援助をうけ、カリブ海のサン・サルバドル島に到着(1492)
→ (13)と信じ、「西インド諸島」と名付ける
- ・アメリゴ・ヴェスプッチが未知の大陸と気づく = 新大陸の発見((14))

◇世界周航

- ・[15](ポ)…スペイン王の援助をうけ、船団が(16)を成功させる(西廻り航路)
スペイン発(1519) → 南アメリカ南端(マゼラン海峡)
→ フィリピン到着(1521):マゼランは戦死 → 船員がアフリカ経由でスペインに戻る

IV ポルトガルとスペインの勢力圏

◇境界線

- ・教皇子午線(1493):教皇アレクサンデル6世が勢力境界線を決定
- ・(17)条約(1494):ポルトガルの不満→教皇子午線を西へ移動
- ・サラゴサ条約(1529):太平洋・アジア地域についても勢力範囲を策定
→ スペインの活動の中心は中南米に

◇アジア・新大陸への進出

- ・アジア:商業拠点の確保にとどまり、大規模な植民活動は行われず
→ すでにアジアで活発に展開されていたアジア内貿易に参入
- ・新大陸:植民活動が展開、先住民の支配・融合 → ラテンアメリカ世界の形成

TRY 資料集P158の地図を見て、次の海洋と勢力境界線を書き込もう。

海洋: 太平洋 大西洋 インド洋

境界線: 教皇子午線

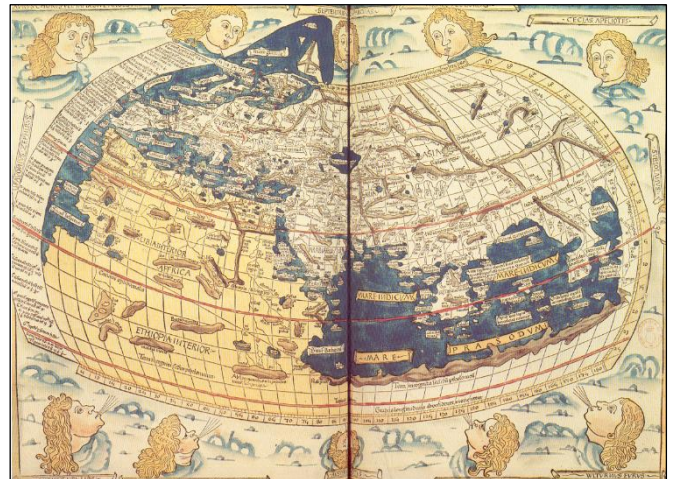
トルデシリャス条約

サラゴサ条約



Q1 教科書P130のトスカネリの世界地図をみて、今日の地図と違うところはどこか、考えてみよう。

Q2 右は1486年にドイツで刊行された地図である(教科書P128)。この地図に比べて、ヴァスコ・ダ・ガマの航路が画期的であった点をあげよう。



1年	組	氏名	検		
----	---	----	---	--	--